

2 研究の実際 > (2) 「強み」に関する活動プログラム

ク 検証結果<中学校> B中学校 第3学年 対象者数37名(うち、回答者数35~36名)

【検証の視点 I】「あなたのおよこSAGAシート(自己肯定感チェックシート)」

生徒がもつ「強み」に着目した交流活動が自己肯定感の高まりにつながったか。

【検証の視点 I-A:「自分自身に関する自己肯定感」に関する項目】

【検証の視点 I-A-(a):「自尊感情」に関する項目】

【検証の視点 I-A-(b):「自己主張・自己決定」に関する項目】

キ 検証内容と検証方法 について

↑こちらをクリックすると、検証内容と検証方法を見ることができます。

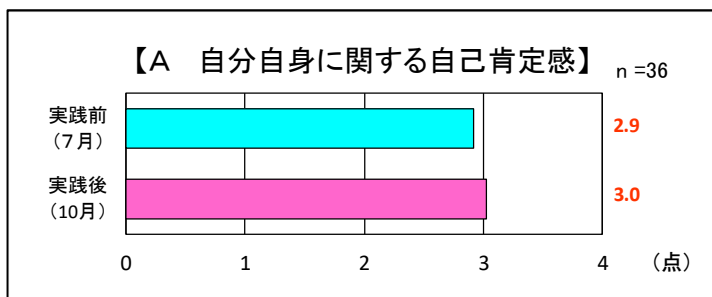


図1 生徒の「自分自身に関する自己肯定感」に関する意識の変化(全体)

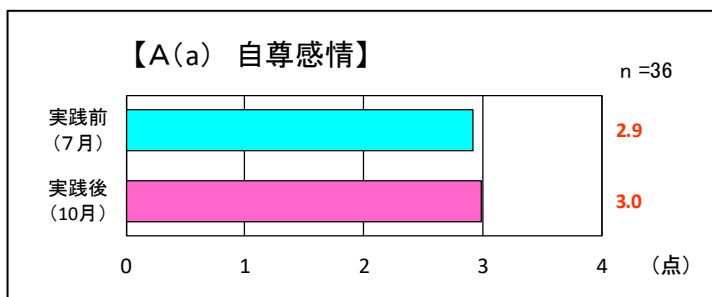


図2 生徒の「自尊感情」に関する意識の変化(下位尺度)

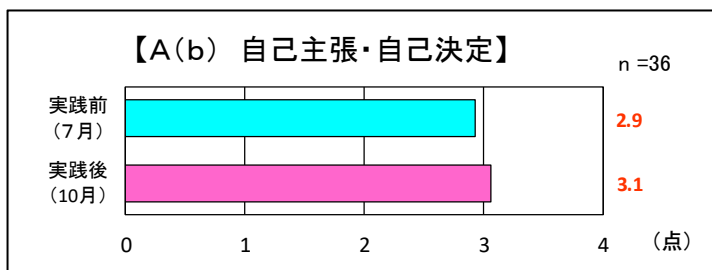


図3 生徒の「自己主張・自己決定」に関する意識の変化(下位尺度)

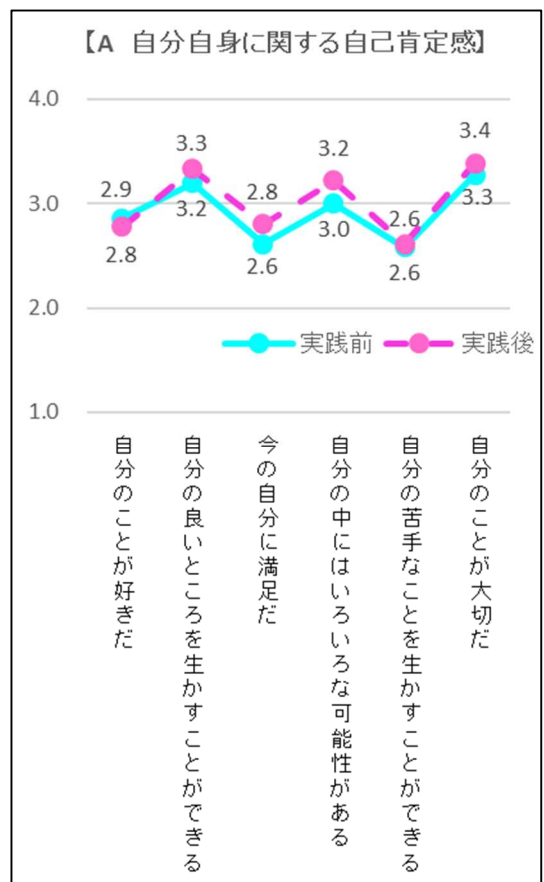


図4 生徒の「自分自身に関する自己肯定感」に関する意識の変化(項目別)

○授業実践の前後で、全体では数値が0.1ポイント、下位尺度では「自尊感情」で0.1ポイント、「自己主張・自己決定」で0.2ポイント上がりました（前頁図1～図3）。項目別では、特に、「今の自分に満足だ」「自分の中にはいろいろな可能性がある」で0.2ポイント、「自分の良いところを生かすことができる」「自分のことが大切だ」で0.1ポイント上がりました（前頁図4）。また、生徒の振り返りシートには、「意外と自分の『強み』は自分で分からないものだった」「友達の見聞を聞いて新たな自分を発見することができた。そして少し自分に自信をもつことができた」「自分の『強み』を生かして生活したいなと思った」という記述が多く見られました。これらのことから、生徒がもつ「強み」に着目した交流活動を通して、「自分自身に関する自己肯定感」を高めることができたと考えます。

【検証の視点 I-B：「友達との関係を通じた自己肯定感」に関する項目】

【検証の視点 I-B-(a)：「関係性」に関する項目】

【検証の視点 I-B-(b)：「自分は価値のある人間」に関する項目】

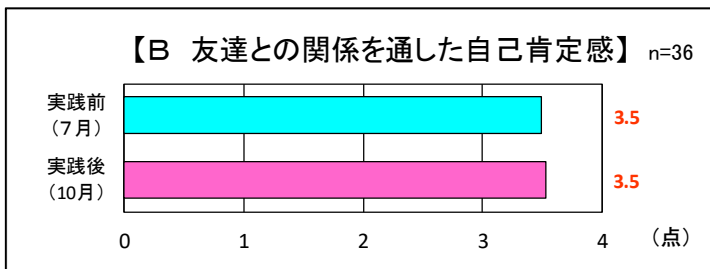


図5 生徒の「友達との関係を通じた自己肯定感」に関する意識の変化（全体）

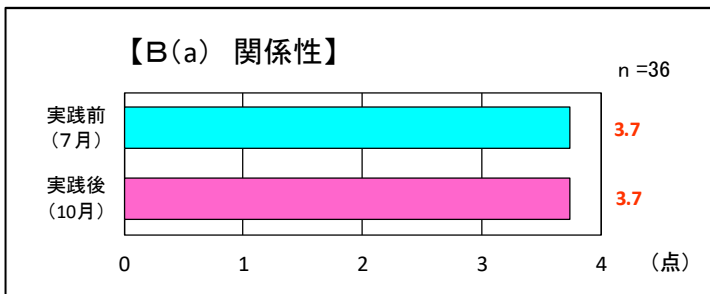


図6 生徒の「関係性」に関する意識の変化（下位尺度）

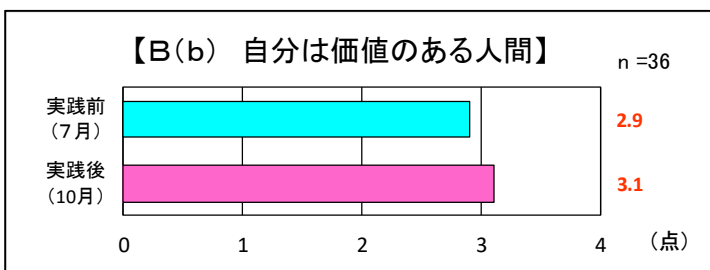


図7 生徒の「自分は価値のある人間」に関する意識の変化（下位尺度）

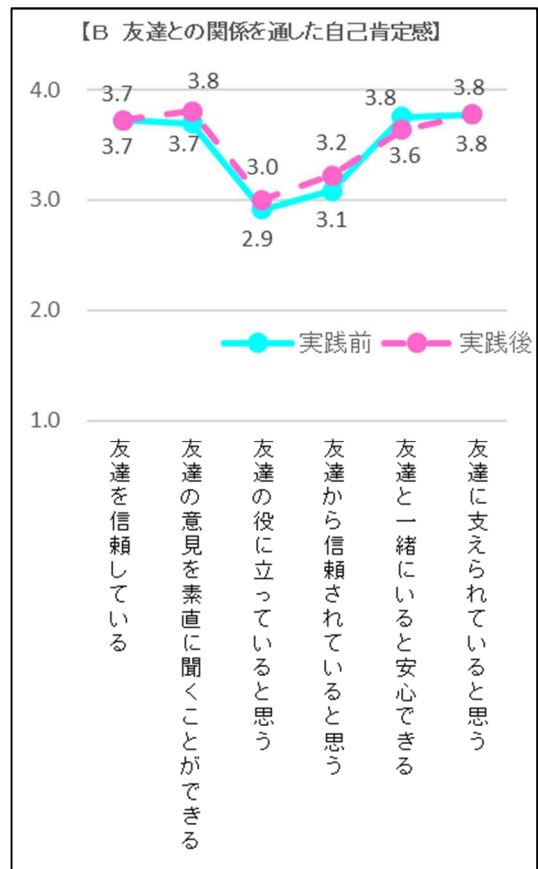


図8 生徒の「友達との関係を通じた自己肯定感」に関する意識の変化（項目別）

○授業実践の前後で、全体での数値に変化はありませんでした。下位尺度では、「関係性」で変化はなく、「自分は価値のある人間」で0.2ポイント上がりました（前頁図5～図7）。項目別では、数値に大きな変化は見られませんでした（前頁図8）。授業実践前から数値が高かったこともあり、全体や項目別の数値に大きな変化は見られませんでした。生徒の振り返りシートには、「友達から『強み』を教えてもらったときは嬉しかった」「友達に教えてもらった自分の『強み』を生活でも生かしていきたい」「自分自身よりは、周りの人の方が自分の『強み』を把握してくれているなと思った。特に、行動に出るところは、自分より周りの人が『強み』と思ってくれていることが多かった」「自分の『強み』を他の人にも知ってもらえて良かった」という記述が多く見られました。これらのことから、生徒がもつ「強み」に着目した交流活動を通して、「友達との関係を通じた自己肯定感」を高めることができたと考えます。

◎中学生の発達段階は、他者との比較や他者からの評価などが大きく影響し、価値観や自分の可能性といった視点で自己肯定感を捉える特徴があります。自他の「強み」に気づき、それを互いに伝え合い認め合うような友達との交流活動は、中学生の実態に即した有効な手立てであったと考えます。交流活動を通して、生徒の「自己主張・自己決定」「自分は価値のある人間」に関する意識が高まりました。以上のことから、生徒がもつ「強み」に着目した交流活動が自己肯定感の高まりにつながったと考えます。

【検証の視点Ⅱ】「がばいシート」

生徒がもつ「強み」に着目した交流活動が互いに自他のよさを認め合うことのできる人間関係を築くことにつながったか。

【検証の視点Ⅱ-A：学級の雰囲気】

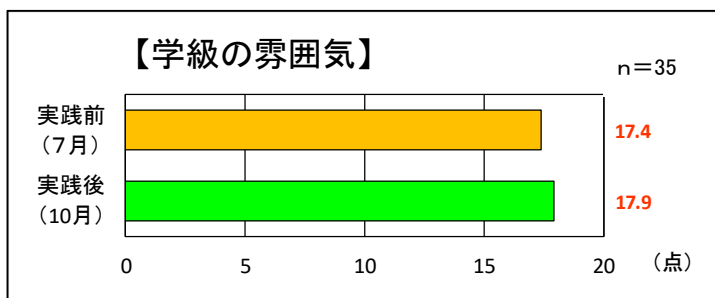


図 9 生徒の「学級の雰囲気」に関する意識と行動の変化（全体）

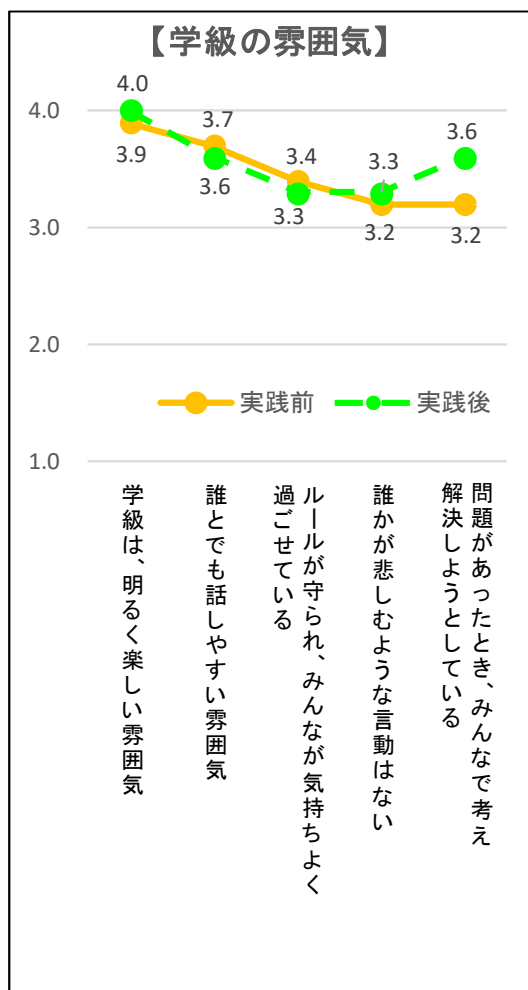


図 10 生徒の「学級の雰囲気」に関する意識と行動の変化（項目別）

○授業実践の前後で、全体では数値が0.5ポイント上がりました（図9）。項目別では、「問題があったとき、みんなで考え解決しようとしている」で0.4ポイント上がりました。また、「学級は、明るく楽しい雰囲気」は0.1ポイント上がって最高の4.0になりました（図10）。その理由として、生徒は日頃から班活動を基盤とした学校生活を送り、体育大会や文化発表会等の学校行事を通して、生徒同士が互いに交流する場面が多く設けられていることが関係していると考えます。また、生徒の振り返りシートには、「グループの人たちが、自分の『強み』を書いてくれたときは嬉しかった」「初めは恥ずかしかったけど、みんなが自分では分からない『強み』を教えてくれたり、友達に『強み』を探したりしていくうちにだんだん楽しくなった」「自分が『強み』と思っているものに共感してもらって嬉しかった」「友達にアドバイスをもらったり、同じ悩みを共有したりすることができたので良かった」という記述が複数見られました。これらのことから、生徒がもつ「強み」に着目した交流活動を通して、生徒が互いに自他の「強み」を伝え合ったことにより、「学級の雰囲気」が良くなったと感じられるようになったと考えます。

【検証の視点Ⅱ-B：友達との関係】

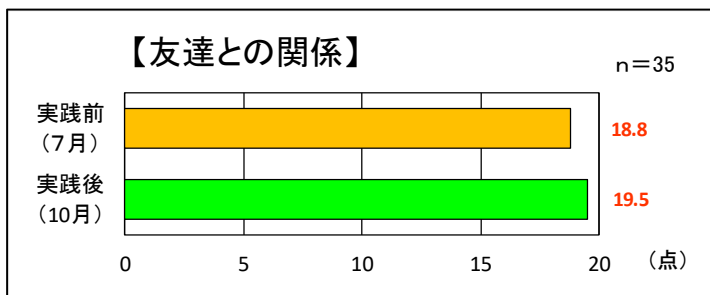


図 11 生徒の「友達との関係」に関する意識と行動の変化 (全体)

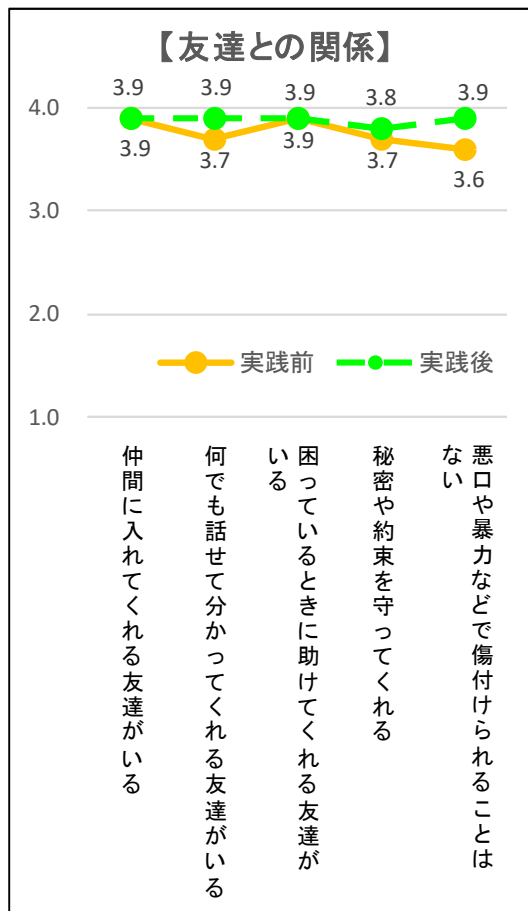


図 12 生徒の「友達との関係」に関する意識と行動の変化 (項目別)

○授業実践の前後で、全体では数値が 0.7 ポイント上がりました (図 11)。実践前の数値が高かったことから、学級における友達の関係は元々良好であったことが考えられます。項目別では、「何でも話せて分かってくれる友達がいる」で 0.2 ポイント上がりました (図 12)。また、生徒の振り返りシートには、「友達の強みをもっともっと知りたい」「自分の『強み』を友達にしっかりと伝え、友達の『強み』を知ることができて良かった」「自分が気付いていないことや、友達が気付いていないことを一緒に知れることが楽しかった」という記述が多く見られました。これらのことから、生徒がもつ「強み」に着目した交流活動を通して生徒が互いに自他の「強み」を伝え合ったことや構成メンバーを変えて交流活動に参加したことにより、今後、学級における「友達との関係」が更に良くなっていくことが期待できると考えます。

◎生徒がもつ「強み」に着目した交流活動を通して、自分や友達の「強み」を伝え合うことで、互いにプラスのフィードバックを積み重ねることができ、「学級の雰囲気」や「友達との関係」を良好であると捉えることができたと考えます。以上のことから、生徒がもつ「強み」に着目した交流活動が互いに自他のよさを認め合うことのできる人間関係を築くことにつながったと考えます。